

V. 特記事項

1. 環境への取組み

本学は、地球環境の保全、推進が人類全体の最重要課題であることを強く認識するとともに、キャンパス内のすべての活動が、環境と調和するように十分配慮し環境マネジメントシステムを構築して、環境推進活動を平成 13(2001)年 6 月の ISO14001 認証・登録を契機としてスタートした。

施設・設備整備の観点では、はじめに太陽光発電システムの導入が挙げられる。本館屋上約 3,000 m²に設置した 2,300 枚の単結晶シリコン太陽電池 (300kW) に加え、本館正面屋上に国内大学で初めて採光型太陽電池モジュールを使った最大発電電力 13.1kW のソーラーチューブの設置をはじめとし、その後合計 580kW に拡張され現在に至っている。雨水利用については、平成 5(1993)年以降、積極的に取り組んできており、学内トイレの洗浄水の 54%までが雨水によるものとなっている。食堂から出る生ゴミについては、平成 10(1998)年からバイオ分解方式で処理しており、平成 25(2013)年からは水と二酸化炭素に分解して処理する方式に更新した。また、食堂の排水処理に関しては、下水道法に定められている「n-ヘキサン抽出物質 (動植物油) 30mg/L 以内」をクリアするため、厨房排水の最上流部である厨房シンクで比重分離を利用し油だけを分離回収する「グリス ECO」を導入、回収率は 95%以上で、非常に純度の高い油を回収することが可能となっている。これらの様々な取組みは、キャンパスの「エコ・ミュージウム」化、体感による環境教育「キャンパスまるごと環境博物館」として体系的に整備されている。

環境教育の観点では、「環境推進委員会」のもと「環境教育検討部会」を設け、「環境特別講演会の開催」「環境系科目開設の検討」「埼玉県主催の環境コミュニケーションの受入れ」等を行っている。また、学生の主体的な活動としては学生自治会に「学生環境推進委員会」を設け、地域とも連携した「宮代町内清掃」「子ども大学みやしろ」「子ども大学すぎと」等への参画が挙げられる。

なお、活動内容については、定期的に刊行している「エコロジープレス」にて、学内外に周知している。これら一連の取組みは、学外からも高い評価を得ており、エコ大学ランキングでは「全国総合順位第 1 位・私立大学部門第 1 位・小規模大学部門第 1 位 (2012 年)」「5 つ星エコ大学 (2015 年)」を受賞、サステイナブルキャンパス評価 (ASSC) では「プラチナ認証 (2019 年)」また「彩の国埼玉環境大賞優秀賞 (2019 年)」を受賞している。

これら 20 年間の活動を踏まえ、本学では今までの環境活動を継承しつつ、高等教育機関である大学の事業活動に添った独自の環境推進活動を追求すべく、令和 2(2020)年度から新たな「EMS 方針」を明示した。また、「NIT-EMS マニュアル」を改正し、EMS の実務推進統括として「NIT-EMS 本部」を設けるとともに、学生を中心とした SDGs 活動を支援する体制として学長を委員長とする「SDGs 委員会」も立ち上げた。

これまでの環境活動をさらに広げ、ペットボトル削減のためのウォータースタンドの学内導入、プラスチックごみを念頭に全国学生清掃週間 NSCWeek への参加、食糧廃棄物削減のための学食改善提案、利根川強化堤防の森づくり事業への参加、「卒業生から新入生へ」のリサイクルショップ運営、デジタルグリッド EMS 制御技術実証試験等、「学生環境推進委員会」を中心に学生も参画する多くの活動を展開している。